

「家づくりの編集権を住まい手に」 TOOLBOX・一杉氏が語るリノベーションの新たな価値

4月21日(火)に開催された関西支部では、2024年「リノベーション・オブ・ザ・イヤー」で総合グランプリを受賞した株式会社TOOLBOXの執行役員・一杉伊織氏を講師にお迎えしました。今回は「家づくりの編集権を住まい手に」という信念で展開される、同社の独創的な取り組みをレポートします。

TOOLBOXでは、空間づくりの素材提供から価格明瞭なリノベーションパッケージまで、住まい手が主体的に住まいを編集できる仕組みを構築しています。例えば、長さがオーダーできるシンプルなタオル掛けの提供、打ち合わせゼロで選べるメニューカタログの展開など、固定しすぎず、自由すぎない絶妙な選択肢の提示が、多くの住まい手の支持を集めています。

昨今、フルリノベーションを必要としない現場が増える中、一杉氏は「既存を極力壊さず、いかに内装の質を高めるか」という課題に向き合っています。例えば、パテ跡や天井をあえて残して中心部のみをくり抜く、既存のキッチンを切断し左官で組み合わせるなど、実験的な「既存活かしリフォーム」に取り組んでおり、こうした「壊しすぎない」ことで生まれる独自の風合いは、感性の高い新規客を獲得する大きな武器となっています。

また、現在注力しているのが、LDKやキッチン



【2024年ROY総合グランプリ受賞作品】撮影：中村晃



扉のみを交換するなどの「部分リフォーム」。「壁貼りだけ」といった小さな改装を、模様替え感覚の日常的なカルチャーに昇華させることで、住まい手と家とのより良い関係を目指しています。一杉氏は、引き上げた古いキッチンをコツコツとリペアし、新築住宅へ設置する活動を行っており「まずは作り手が一番楽しもう」という言葉には、参加したプロたちへの温かいエールが込められていました。

最後に、今回の講演を企画したアートアンドクラフトの松下氏は「自社の大事にしていること、建材開発の話、自社で取り組む実験的なリノベーション工事の話など幅広くお話しいただき、参加企業にとっても有意義な時間となりました」と振り返りました。

NEWS!

関西支部からのお知らせ

「まちづくりファンド」による空き家再生スキームを大公開！ 「ピアポート築港」OPEN記念トークイベントのご案内

解体寸前、屋根が抜け落ちた空き家を、ブルワリー&宿泊施設へ再生。解体寸前の空き家を、いかにして金融機関が融資を認める事業へと昇華させたのか。MINTO機構と大阪シティ信用金庫による「まちづくりファンド」の組成と、収益化までのリアルな事業スキームを、実践者2人が徹底解説します。理想論ではない“稼げるまちづくり”の実践事例を公開するプロ向けのトークイベントに、先着15名までご参加いただけます。

「ピアポート築港」OPEN記念トークイベント

日時 2026年7月22日(水) 16:00~(受付15:30~)
場所 KLASI COLLEGE 大阪府大阪市港区築港2丁目1-27
※大阪メトロ中央線「大阪港駅」4番出口より徒歩2分
申し込み シンプルハウス・大畑 (oohata@simplehouse.co.jp)宛に、下記事項を記入いただき、メールにて申し込みください。【記載事項：参加会社名、参加人数、代表者氏名、当日繋がる電話番号】



リノベーション協議会の入会方法

1.WEB申込と書類郵送

公式サイトフォームから仮登録・本申込を行い、入会申込書や履歴事項全部証明書などの必要書類を事務局へ郵送します。

2.審査と承認通知

事務局および理事会による入会審査が行われ、承認されると入会金・年会費の案内が届きます。

3.費用納付と会員登録

入会金と年会費を納付します。入金確認後、会員サイトのID発行と会員証の交付をもって正式入会となります。

4.講習会の受講

入会後はオリエンテーション・講習会に参加し、適合リノベーションの運用ルールを習得して活動開始です。

入会案内



Renovation Times Vol.13 2026年5月号

発行 一般社団法人リノベーション協議会
発行人 馬越重治(理事/エス・コンセプト)
編集長 山崎大亮(九州・沖縄エリア事務局長/はびりの)
編集人 原文美(ハラプロ)
制作 吉田千裕(はびりの)/土田芳史(平広広吉宣伝事務所)
編集人(9-4) 神崎英徳(関西エリア事務局長/PRリンク)
発行日 2026年5月20日

本誌は、九州・沖縄エリア部会が作成するRenovation Timesをベースに、関西エリア部会の情報に一部差し替えた関西エリア部会版です。エリア内正会員50社/賛助会員10社/2026年5月10日現在

今回の発行は2026年8月予定です

Renovation Timesでは、リノベーション協議会に加盟している事業者の取り組みをご紹介します。関西エリア部会で掲載をご希望の方は、お気軽に神崎(メールkanzaki@prlink.jp)までご連絡ください。

Renovation Times

VOL.
13
2026.05

かえる。くらし。すまい。
リノベーション協議会



福岡支部
森美朗
株式会社リビングデザイン代表取締役。2015年に創業。福岡県飯塚市を拠点に、経営理念を「リノベーションを通じて関わるすべての人を豊かに」と掲げ、地域(筑豊エリア)に根ざした成長を目指している。

コロナで減った支部例会 リアルな学びが欲しかった

森_私が退会を考えたのは、活動の中で得られるものが減ったと感じたからです。コロナ禍以降、福岡では例会もなくなり、イベントに参加しても見知ったメンバーとの交流が中心。しかも、リノベの話より懇親や雑談が多くて、これだと、時間とお金ももったいないと思いました。

福添_ワーキング(エリア役員会/以下WG)は定期的に開催していたんですが、一般会員が参加できるイベントは確かに減っていました。協議会発足期には相互発表する場もあったけど、ここ数年は一方通行になっていたかもしれないね。

山崎_それには2つの原因があると思います。一つは福岡に支部がなく、九州沖縄全体の動きをサポートするWGが兼任していたため、福岡独自の活動がおざなりになっていたこと。そして、もう一つが役員の固定化に伴うパワーダウンです。

徳永_確かに、協議会設立時は熱があったよね。僕が若かった頃は関西や東海部会なんかとも交流が盛んだったし、学びも多かった。

森_私も創業時にいろいろな団体への入会を検討したんですが、その時は協議会が一番活動的で、ステキな人が多いと感じました。

大切なのはエリアの特性 支部活動のニーズは異なる

山崎_今期、福岡支部を作ったのはそのためです。例えば東京に本社がある大手メーカーでも、本社部門と首都圏営業部では役割が異なりますよね。同じ

九州沖縄エリア部会
事務局長兼福岡支部長
山崎大亮

(株)はびりの代表取締役。2014年に創業後、福岡都市圏のワンストップ事業(仲介+リノベ)でトップクラスの事業社へと成長。再販も手掛ける。2017年に協議会入会、2023年から支部役員としても活動中。



ように、九州の中で福岡と他支部では会員構成も異なり、必要とされる情報も違います。協議会が活性化するためには、地域の特性に根ざした支部活動がとて大切なんですよ。

森_確かに、当社が基盤とする筑豊エリアではそもそもマンションが少ないし、最先端のデザインに対するニーズもそれほど高くありません。東京や福岡の事例ばかりだと、正直興味を持ってないこともありました。

福添_リノベーションが一般化したからこそ、協議



対談場所は、飯塚市のリビングデザイン本社事務所。創業10年で、自社ビルを構えるまでに成長した。

TOPIC!

6月部会講師 つみき設計施工社・河野氏インタビュー

建物のことや施工の楽しみを知って欲しい、教えたい——
「ともにつくる」参加型リノベーションで、かけがえのない場所を創り出す

2010年の創業以来、施主やその家族にも左官や造作、塗装の一部などを手掛けてもらう「参加型リノベーション」に特化してきた合同会社つみき設計施工社。建築家や職人と、住む人・使う人が「ともにつくる」ことで、満足度の高い建物が出来上がるだけでなく、かけがえのない場所をつくりあげている。業界の常識・セオリーとは一線を画し、遊び心や楽しさをリノベーションに持ち込んだ同社の取り組みは、2025年の「リノベーション・オブ・ザ・イヤー」でも高く評価され、初エントリーにも関わらず総合グランプリを受賞した。

関西部会では6月16日(火)に、同社代表の河野直氏に講演していただく。「ともにつくるを極めることに宿命を感じている」と邁進する河野氏に、その軌跡や実際に何をやって何が生まれているかを語っていただく予定です。



2025年ROY総合グランプリ受賞作品

6月部会案内 6月16日(火)開催

次回の部会は、神戸・塩屋の海辺に佇み、明治建築の美しさを残す、築100年を超える洋館「旧グッゲンハイム邸」で開催します。TOPIC!のインタビューでご紹介した「つみき設計施工社」の河野氏に「『ともにつくる』参加型リノベーション」から見てきたこと、何が生まれたかをお話しいたできます。また、会場となる旧グッゲンハイム邸を再生した、音楽家であり、地域文化の仕掛け人でもある森本アリ氏にも「ちいさなまちのあそびかた」をテーマに、建物の歴史や魅力、塩屋の周辺空き家再生などの取り組みもお話しいたできます。部会の終了後には同会場にて懇親会を行います。詳細や申し込み方法は、改めてメールでご案内します。部会、懇親会の参加は、右のQRコードからも申し込み可能です。6月11日(木)までに申し込みください。

イトを増やし、今もなお研鑽を継続している。「年齢的に身体が厳しいと感じる時も多いけどね」と笑顔で語り、自らが定めた道を突き進み続けることができるのは「これをやりたくて、つみきを創業した」というルーツと情熱があるからだ。建物のことや施工の楽しみを知って欲しい、教えたい。河野氏がやりたかったことは「教育」なのだという。

そのために、施主との「ともにつくる」事業のほかに、ワークショップの開催や、現場でのインターンシップの受け入れなども積極的に展開。加えて、大学に籍を置く研究員としての顔も併せ持ち、国内外で学術的なネットワークも広げている。3月には、明治大学とノルウェー科学技術大学の共同ワークショップで講師として招聘され、ノルウェーの築百数十年の木造建築を手ばらして解体し、歴史を紐解いていく作業を指導した。このワークショップ自体はリノベーションではないが、世界では「解体」と再利用が最先端のトレンドであり、特にヨーロッパでは再循環を意識した建築が広まっているという。

限りある資源や素材をより長く、効率的に使うリノベーションは、環境面において有用であることは間違いない。同社が取り組む「ともにつくる」は、その再循環をつくり出すプロセスへ施主に参画してもらい、新たな価値を生み出す挑戦でもある。ともにつくった場所を誇りに感じている人や、ワークショップの参加者同士のつながりなど、さまざまな価値が生まれつつあり、河野氏は「数多くやってきた今だから見えてきたことや、具体的に何をし、何が生まれたかを講演で伝えたい」としている。

合同会社つみき設計施工社
代表/共同創業者 河野直



京都大学大学院建築学修了後、26歳の時にどこにも就職することなく、「ともにつくる」を合い言葉に「つみき設計施工社」を起業。市川市を中心にDIYワークショップを400回以上実施。著書に「ともにつくるDIYワークショップ」等。2021年東京大学建築生産マネジメント・連続レクチャー「つくるとは、」ディレクター。3児の父。



旧グッゲンハイム邸



講師の森本氏



申込

ン性では負けてないですよ。情報が届いていない層にも、もっとアピールしていくべきなんです。

リノベはオシャレじゃなくてもいい
多様性の時代にブランド化を目指す

山崎__協議会ってそもそもビオトープみたいな多様性が魅力だし、それを高めていくべきだと思っています。徳永さんには悪いけれど(笑)、リノベはオシャレじゃなくてもいいんです。設計事務所も工務店も、そして不動産会社もそれぞれの違いを認め合い、互いをリスペクトすることが大切です。

福添__そういう意味では、買取再販はかなり社会的に認められたと感じています。新築って、昔から全然変わってないんですよ。いい設備を入れて、ハイグレードな空間にする。でも、それだけじゃダメなんです。準備に手間はかかるけれど、中古リノベの方が断然満足度は高いと思います。

森__多様性という視点では、WG固定化も課題だと思ってました。他団体では役員任期を定めているところが多いし、それによって組織が活性化していません。人が入れ替わることで、提供される情報も変わるのではないのでしょうか。

徳永__そもそも、横のつながりが協議会の大きな魅力ですよ。だからこそ、多様なプレーヤーが手を組んでコンペにエントリーしたり、他事業者との連携をもっと強化すべきなんです。

山崎__組織の多様性を高めるためには、既存メンバーに協議会をもっと活用してもらいつつ、役員の固定化も改善すべきですね。その点は大きな課題と認識しています。

業界全体の発展を意識し
交流と発信を強化していく

徳永__リノベのスキルって、どうしても属人化するんですよ。もちろん、富裕層向けの会社や設計事務

福岡支部 副支部長
福添建一

ふくろう不動産(株)代表取締役。地場デベロッパー勤務を経て、2011年に創業。2016年から中古マンションの再販を主力事業とする。健康づくりにつながる住まいの提供を目指し、自社ブランド「つくらし」を展開中。

所は、今後も個人名が意味を持つと思うけど、本当は会社自体をブランド化することが大切です。そして、その取り組みを会員間で共有していくことで、リノベーション業界全体の盛り上げに繋げるべきだと思っています。

福添__残念なことには、不動産業界はまだ新築中心なんです。自社だけでは発信に限界があるからこそ、協議会全体の力でリノベの需要を喚起していきたいですよ。

山崎__リノベの会社って、大手の再販事業者を除外と規模の小さな会社が多いんです。そういった会社のクラフトマンシップもリスペクトしながら、今後はマス層のお客さまも安心して相談できる事業者が増えることが重要だと感じています。

福添__残り時間も少なくなってきましたが、森さん、どうでしょう。今後の福岡支部の活動に期待して、退会は考え直していただけますか？

森__わかりました。改めて活動に参加し、もう一度つながりを広げることができないか、私自身も動いてみようと思います。



会が最先端ではなくなり、時代に取り残されてしまったのかもしれない。だからこそ、会員のセグメントや地域性、ニーズを意識した上で、学べる機会を増やしていくことが重要だと思います。

徳永__そういう視点だと、リノベーション・オブ・ザ・イヤーのあり方も見直したいな。いまだに大手のリフォーム会社に行く富裕層も多いけど、デザイ

協議会を構成する主なセグメント



設計事務所(例:ブルースタジオ)、買取再販事業者(例:インテリックス)、リノベ会社(例:リノベ)が購接したセグメントを巻き込み、メーカーなどの周辺事業者と共にリノベーション事業の普及を目指すことが協議会の成長につながる。

先達に学ぶ

経営コンサルタントとして知られる一倉定氏が「郵便ポストが赤いのも社長の責任」と言っています。会社トップには他責思考でなく、自責思考を求めた発言です。ですが、これはなにもトップに限ったことではありません。どんなポジションにおいても自責思考で問題を直視し、挑戦し続けなければ成長は見込めません。

当社が福岡都市圏で規模拡大できたのは、間違いなく協議会のおかげです。心より感謝しています。たくさんの先輩から指導や助言をいただき、協業する中で私が大切にしたのは「テイカーではなく、ギバーになる」という意識です。協業で生じるリスクを折半するのではなく、まずは自分自身が負う。自己のメリットよりも、相手のそれを優先する。そして、結果として信頼を得る。

協議会活動が停滞しているとすれば、そこには何らかの理由があるはずですよ。まずはリーダーシップを取る側がその事実と向き合い、根源的な原因を分析し、対策を実行する。評論家にならず、実践者となる。大きなムーブメントも、小さな取り組みの積み重ねから生じるものです。今年から始まる福岡支部の活動に、どうぞご期待ください。

<インタビュー>

九州沖縄エリア部会
事務局長

山崎大亮(株式会社はびりの)



Column

九州沖縄エリア部会の活動を全国へ

2010年7月に九州沖縄エリア部会が発足して以来、支部が各地に生まれ、昨年は宮崎にも支部が生まれました。そして各支部のイベントなどの活動がそれぞれのエリアに生まれ、それに伴い会員が増えました。

しかしながら、コロナ禍の自粛により、福岡における活動が減っていました。そこで今年の2月に「年次総会」という形で、九州沖縄各地から、特に福岡エリアの会員さんに集まっていただきました。多数の会員にご参加いただき、非常に盛り上がった年次総会となりました。時節柄、お忙しい中にも関わらず、ご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございます

した。また、てんこ盛りのプログラムでしたが、準備と運営にご尽力いただいた皆さまにも感謝申し上げます。

年次総会でも話がありましたが、福岡での活動を充実させていくために、今後は「福岡支部」が主体となってさまざまなイベントを開催していきます。ぜひ奮ってご参加ください。

九州沖縄エリアでは、各地の支部長を中心としたスタッフが能動的に活動を行っています。これは全国の他エリアと比較しても、非常にすばらしいことです。これからは九州沖縄エリアで培った活動内容を他エリアにも提供させていただき、協議会全体の発展に役立つようにしたいなあ…と思っています。今日この頃です。

リノベーション協議会
理事
馬越重治